

ISMRRM Philadelphia 大会印象記

伊東克能

山口大学医学部放射線科

北米を中心としたMRの国際学会であるISMRRM (International Society for Magnetic Resonance in Medicine)の第7回大会は1999年5月22~28日まで米国Pennsylvania州のPhiladelphiaにおいて開催されました。会場となったのは、Philadelphiaへの最初の入植者であるWilliam Pennの銅像が屋根の上に掲げている市庁舎からほど近いPennsylvania Convention Centerでありました。このConvention Centerは鉄道の車庫だった場所の一部を改装してつくられたもので、フラワーフェスティバルなど学会以外の巨大な催し物にも頻繁に使われています。Convention Centerと同じ並びには、やはり車庫を改装して作られたreading marketがあり、肉、魚を中心とした市民の食生活必需品がふんだんに並んでいます。また屋根続きには5年ぐら前に新築されたMarriott Hotelがあり、日本から参加された先生方はたくさん宿泊されていたのではないかと思います。やはり屋根続きでMarket East Stationと、一駅はなれてSuburban Stationがあり、こちらは郊外の住宅街とCenter City (Philadelphiaのダウンタウン)を結ぶ通勤路線となっています。会場周辺にはハードロックカフェ、チャイナタウン、ギャラリースョッピングセンターなどがあり、食事や買い物にも非常に便利です。またちょっと足を延ばせば、historic areaも徒歩圏内で、自由の鐘、

インディペンデンスホール、ベッツィロスの家(初めての星条旗を縫った人の家)なども見て回れます。

1. 地の利(地元開催)

このように書いてみるとConvention Center周辺にやけに詳しいと思われるかもしれませんが、これは私が当時、PhiladelphiaにあるThomas Jefferson大学放射線科に留学中であったためです。Thomas Jefferson大学はPhiladelphia Center Cityの中心部に位置し、Convention Centerまで徒歩10分のところであったため、学会場には通勤感覚で通っていました。学会特有の緊張感もあまりなく、服装も普段着とあまり変わらないもので学会に参加してしまいました。お昼休みや夕方には大学に戻って食事をしたり仕事の続きをしたりで、時間も有効に使うことができました。

学会そのもの以外に、今回は日本から来られたたくさんの先生方とお会いできるのが一つの楽しみでした。皆さん、Thomas Jefferson大学の放射線科についてご興味があるということで、3回にわたって見学ツアーを行いました。1回目は山口大学の先生達と行いましたが、このときは(学会中でもあり)既に夕方6時近かったため、院内は閑散としていましたが、その分、モニター診断システムを中心に自分で操

作しながら比較的ゆっくりと過ごせました。2 回目は某先生(2名)と計3人で回りましたが、このときは知り合いの技師さんが少なかったせいもありますが、どこに行ってもうさんくさそうな態度で見られてしまいました。これと対照的だったのが3回目のツアーで杉村先生、富樫先生をはじめとした10人ぐらいのグループでしたが、モニター診断システムについてはMR部門のdirectorであり私のsupervisorでもあるDr. Mitchellが直接説明してくれたり、またどこへ行っても、よくいらっしゃいました、という感じで歓待をうけました。

ISMRMの開催地は3年周期で、2年続けて北米大陸で開催し、次の1年が北米大陸以外での開催となっています。最近では、ニューヨーク('96)、バンクーバー('97)、シドニー('98)、フィラデルフィア('99)、デンバー(2000)、グラスゴー(2001予定)となっています。会期はゴールデンウィーク前後のことが多く、良い季候の時期にいろいろな都市で開催されることから学問以外にも学会参加の楽しみがあります。また米国内のMRを専門とする放射線科医にとってISMRMはRSNAと並ぶ重要な学会として位置付けられており、発表のレベルの高さも過去の大会からみてとれます。この学会の日本開催も話題にのぼっていますが、日本国内での昨今のMR診断の発展ぶりを考えれば、日本主導でこの学会を開催するのは有意義なことだと思います。海外からの先生方と桜の季節にdiscussionを深め、機会があれば日本国内の施設を個人的にあるいは学会主導で見学していただければ、日本の放射線診断の現状(良い点、悪い点含めて)をよく理解していただけるのではないかと思います。

2. Philadelphia 大会の印象

私自身、6月末に帰国することが決まっていたため、5月ごろから残った仕事の整理やまとめ、帰国の準備などで忙しくなることがあらか

じめ予想されていたため、今学会にはポスターだけ出して、お茶を濁そうとしていたのですが、poster walking tourになってしまい、結局、ポスター制作に加えて、発表の準備もしなければならぬ羽目になりました。また最初から印象記を書くつもりで学会に臨んでいれば気入れようも少しは違ったのですが、そんなこんなで、あまりまじめには各発表を聞いていないというのが正直なところで、今になって後悔をしているところですが、参加したセッションの中で、私の興味の範囲内で印象を述べさせていただきます。

学会は口演発表とポスター発表に分かれていますが、口演発表にはclinical focus sessionが適宜組み込まれています。これは臨床に即した発表のうちその年の話題となっているテーマをある程度一つのsessionにまとめて発表、討論するものです。腹部領域では1) Detection and characterization of cancer in the abdomenと2) Body imaging: application of new techniquesが組まれていました。1)では主にSPIO, MnDPDPを含めた各種造影剤の肝腫瘍に対する診断能を検討した発表が中心で、これらは既に臨床で広く使用されているpulse sequenceや手法を用いており目新しさはありませんが、臨床レベルでMR画像に携わる放射線科医にとってはなじみの深い、また演題の出しやすいsessionだと思われます。2)では新しく開発されたpulse sequenceや撮像法の臨床応用への可能性を示した発表がなされました。例えば、in-phaseとopposed-phaseの両画像を1回の息止めで同時に撮像し、位置ずれのない状態でsubtractionをかけて少量の脂肪の検出を可能とし、脂肪肝や肝細胞癌の診断に役立てようとするもの(演題番号517)、multiple inversion recovery pulseを用いたshort echo HASTE法により、筋肉と脂肪組織の信号を落とすことで、肺実質と肺血管の描出を可能、改善する試み(演題番号519)がなされていました。またMR elastographyによるpros-

tate および breast lesion の診断 (演題番号 525, 526) では, 従来の形態, 血行動態に基づく MR 診断では見えなかった, 新たな性状診断の可能性を示唆しています.

口演発表にはこの他, clinical categorical course, morning categorical course, educational course といった教育的コースが多数盛り込まれているのが特徴です. Morning categorical course には MRI of sports injuries, MR angiography, clinical spectroscopy の三つがテーマとして設けられ, 火曜から金曜日までの毎朝 7:00~8:00 に行われます. RSNA の refresher course が通常 8:30 開始であるのと比べると, いささか朝早い印象がありますが, resident としてこれぐらいの時間からの仕事を経験してきているアメリカの放射線科医にとっては普通のことなのでしょう. Clinical categorical course では hepatobiliary, cardiac, gynecology, neuro, gastrointestinal の各コースが組み立てられており, 各分野の authority による, 臨床に

即した基本的なポイントから最新の話題まで含めた講義を聞くことができます. 講義内容は, それらを専門領域としている人にとっては知識の再整理として役立ちますし, そうでない場合は, 新たな知識として身につきます. 今年の educational course は MR physics and techniques for clinicians と題したコースが設けられていましたが, 個人的には詳しい内容を把握していません.

最 後 に

ISMRM では MR に関する最新の話題が聞けるばかりでなく, 放射線科以外の先生方ともディスカッションできる良い機会であると思います. これまで ISMRM に参加されたことのない先生方が, この印象記を読まれて少しでも ISMRM に興味をもてただければ幸いです.